

根源にある、日米地位協定の改定、安保条約の廃棄という主権国家の実現を迫るうえでの最大の武器は、日本国憲法の力です。

いま朝鮮半島の非核化と平和体制の構築に向けての対話と交渉の情勢は、一進一退、一時的停滞はありますが、平和への激動の本流は大局的にはもはや後戻りはできない流れとなりつつあります。憲法9条の生きる日本と北東アジアの平和体制を実現できる展望がいま現実性と重要性を帯びています。平和委員会はこの情勢を生かし大いに役割を発揮すべきときです。

一人ひとりの力は小さいように見えますが、結束した力は奔流となり世界を揺るがします。

### 閉会あいさつ 石川康宏代表理事

昨年从今年にかけ、たくさんの皆さんの発言を聞いて、発言の内容がより具体的に変わったような気がしました。なぜか。その一つには在日米軍基地の増強、平和の危機が進行していることがあると思います。そのことを監視し、批判し、多くの市民に伝え、食い止めようと運動がすすめられていることが反映しているのだと思います。

在日米軍基地の強化を押し返す運動が展開

されています。それらは、自治体への要請、集会での講師活動、これまで手をつなげなかった団体と手をつなぐ、基地監視、市民へのアンケート、自治体へのアンケート、裁判闘争、選挙の取り組み、平和ガイド、座り込み、映画上映、学校での平和学習など非常に多彩です。討論のなかでも、平和委員会の出番だということが語られました。

ただ、出番であるにもかかわらず、なぜ組織が大きくなるのか。そこには、私たち、皆さんのがんばりにもかかわらず、周りの人たちから見えて魅力ある組織に見えていないということがあるのではないのでしょうか。魅力がある、あそこには希望があると見れば人は近づいてきます。それが見えないと、人は価値を認めても近づいてはきません。

ここが、私たちが力を合わせて突破しないといけないところではないかと思えます。

基地問題の分科会に参加しました。この分科会を選んだのは、私自身が勉強したかったということが一番の動機です。発言は濃密に準備され、ベテランの皆さんは歴史的系統的に変化を語る事ができます。横のつながりもお持ちですから、あそここの県の基地とうちの県の基地との関りも語られ、まさに情報の宝庫でした。

一方で、一度聞いてとてもわかるものでは

ないとも思いました。短い時間で話されたということもありますが、いかにもこの道数十年のベテラン同士の会話という風にも聞こえました。一般に街頭で話しても誰にもわからないだろうなと思わざるを得ませんでした。また、たくさんの人に理解をしてもらおうという工夫をしているのか、その点にふれた発言はあまりありませんでした。

分科会のテーマには、平和の街づくりの展望を語るということも入っていましたが、この基地のある街をどう変えることが可能か、現状を批判するだけでなく、この状況を平和の方向に作り変えたとき、私たちや子や孫の暮らしにどういう明るさが生まれるのかという問題にはほとんどふれられませんでした。

仲間増やしと世代継承の問題も、私たちの分科会ではほぼ発言がありませんでした。テーマと発言時間の短さもあるでしょうが、語るべき成果がなかったこともあったのではと率直に感じました。そこに活動の力点が置かれていないなら大きな問題ではないかと思えました。

もう一つ、大量の情報をどう広げるかということに関わっては、インターネットの活用にもふれる発言が一つもありませんでした。あれだけ大量の情報は、一枚のビラには入らない、耳にも一度では入らないわけですから、

関心を持った人がアクセスすればいつでも詳しく見ることができ、情報の貯蔵庫が必要で、それをぜひ作る必要があると思います。

私も学生に教えてもらいながらツイッターやフェイスブックをやっています。うちの学生は紙の新聞を読みません。生まれたときから20歳まで読んでいませんから、これ以降急に紙の新聞を広げられるとは思えません。そういう人たちにどう情報を届けるかを真剣に考える必要があります。学生の情報源は圧倒的にスマホです。ということは、スマホで検索したときに出てこないものは、この世に存在していないのと同じです。好きであろうと嫌いであろうと、得意であろうと不得手であろうと。不得手なら学ぶしかない。インターネットの世界に挑戦する必要があると思います。

みなさんは、いわゆる「試されずみ」という宝をお持ちだと思えます。その力で運動を広げると同時に、たくさんの人から魅力的に、とりわけ若い人たちにとって魅力的に思える組織にするためには、どういう運動の仕方をしたらいいのかということを考える必要があると思います。

会議でよくあることは、やるべきことを確認したらそれで終わるといふことです。しかし、やるべきことをどういう形で進めるかと

いうことにこそ、時間を費やす必要があります。これまでのやり方ではなかなか結び付けなかった人と、どう結び付くかといったことをよく考える必要があると思います。

私たちの分科会の最後に、若い方が言われていました。発言を聞いていて何を話しているかよくわからないことがたくさんあったと。そうですね。ベテランのみなさんも最初はそうであったはずで、彼女の言ったことで大事ななと感じたのは、映像を上手に使うことの重要性です。目で見ること。高校や大学の授業で、動画やパワーポイントを使うのは当たり前のことです。先進的でも何でもない。標準的です。その力を身につける必要があると思います。

今大会は、若い方が昨年以上に自信を深めて発言されているのが印象的でした。「ゆるく」がキーワードということが語られました。専従活動家でないといけないという運動ではなく、たくさんの人が帰りにチョット寄っていきける、時間があいたときにチョット参加できる運動の仕方、しかも行ったら面白いと感じることのできる運動の仕方、野次馬的に参加できるような運動の仕方をつくっていく必要があります。

その「ゆるさ」が、ベテランの皆さんにも必要なことではないかと、つまり若い人たち

に運動を広げる上で、ベテランの寛容さが必要だ、寛容さが足りないと言われているわけです。今大会は60代、70代が一番多く参加されました。私も60代に入っていますからその一人です。しゃべるだけでなく若い人の話をしっかり聞きなさいよとも。これは痛烈な批判でした。

この夏の参院選を乗り越え、改憲から憲法通りの日本へという道をひらく上で平和委員会としての大きな力を発揮しながら、新しい取り組みとして、若者や女性たちとさらに結びつくことのできる運動の仕方を工夫しましょう。根性で頑張るだけでなく、運動の仕方を自己点検し、新しい試みをしながら前進をつくりあげて、来年は京都に集まりましょう。

## 退任のあいさつ

### 住吉陽子代表理事

今回の大会で代表理事を退任させていただき、顧問に推薦されました住吉陽子です。2003年に代表理事に選出されてから15年間、全国の仲間のみなさまに大変お世話になりました。ありがとうございます。

私は1933年、東京生まれです。子ども時代は戦争につぐ戦争のなかで育ちました。太平洋戦争に突入したのは小学2年生のとき